

今月の

5冊



マンガ 精神疾患をもつ人への関わり方に迷ったら開く本
教えて看護理論家の先輩たち! 私の役割って何?

中村創=原作 水谷緑=漫画
発行: 医学書院
定価: 1980円 (本体1800円+税10%)

精神科に入職した新人の成長物語となっている本書。主人公の成長を後押しするのは、先輩たちだ。患者との関わり方や看護の方向性に悩むたびに、先輩が看護理論家の言葉を引用しながら、ケアのヒントを提示してくれる。主人公とともに重要な看護理論のエッセンスをつかみ、精神科の看護を学べる。

認知症のわたしから、10代のあなたへ

さとうみき=著
発行: 岩波書店
定価: 1595円 (本体1450円+税10%)



43歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断を受けた著者。一時期は閉じ込めだったが、当事者や支援者との出会いを経て、現在は当事者同士のサポート活動のほか、各地で講演会なども行う。「ひとりでは抱え込まない」を大切にしながら生きる日々を描いた1冊だ。書籍内のイラストは、小誌で表紙イラストを担当する高橋恵子さん。

ユマニチュードへの道

イヴ・ジネストのユマニチュード集中講義

イヴ・ジネスト、本田美和子=著
発行: 誠文堂新光社
定価: 1760円 (本体1600円+税10%)



ユマニチュードの核となる哲学は、通常のコミュニケーションがとれなくなった人たちの間に絆を結び、人間らしさを取り戻すこと。本書は、実際に行われた大学での講義の学生と著者との対話を足掛かりに、ケアの本質、ユマニチュードの哲学と技術を、プロフェッショナルとしてのケアという視点でまとめている。

看護師の倫理調整力 第2版

専門看護師の実践に学ぶ

鶴若麻理、長瀬雅子=編
発行: 日本看護協会出版会
定価: 2420円 (本体2200円+税10%)



複雑化、多様化する臨床現場にあふれる倫理的課題に、医療者はどう対応していけばよいのか。専門看護師が行った20の「倫理調整」の実践事例をもとに考察するのが本書。今版では遺伝看護、災害看護、COVID-19対応を含む8事例を加え、臨床での「違和感」と倫理的課題の関連性、医療者がそれらと向き合うためのアプローチがまとまっている。

国民の介護白書2022年度版

日本の介護力を徹底検証

青木正人、川淵孝一=編集委員
発行: 日本医療企画
定価: 3960円 (本体3600円+税10%)



少子高齢化、人口減少が進み、介護離職、ヤングケアラー、介護人材不足など、社会問題が山積する日本。本書は、現代の介護を10の視点から考察し、人生100年時代を生き抜く知恵や取り組むべき課題を提示する。さらに、介護業界の課題や動向、介護現場の声を紹介して理解を深めながら、介護サービスのあり方を考える。